

サイタマレディース探検隊「県庁の星・部長の輪！」シリーズ

第2回 埼玉県 農林部長 西崎 泉 様 平成22年10月12日取材

埼玉県農林部は、農業の法律の施行、野菜の流通に関する指導、農地の活用、農業支援など、県内の農林業の活性化に深く広く関係のある部署です。

今回は農林部の西崎部長に、埼玉県の農林業と女性の役割、食育、今後の農業のありかたなど、幅広くお話しいただきました。



【 Q.埼玉県内の農林業の特徴は？ 】

埼玉県の人口は718万人。全人口の18人に1人が埼玉県人です。また県地面積に占める農地面積は約21%です。県内面積に占める農地面積の割合の高い県の順位では、第4位にランクインしています(1)。

県内の農業は、出荷額全体に占める『野菜』の割合が約47%と高いこと、関東平野に位置することから『花き栽培』が多いことが大きな特徴です。

【 Q.県内の農業経営と女性・家族の役割は？ 】

埼玉県の就農者は約9万5千人、うち約53%が女性です。また兼業農家も多いことも特徴です。一般的に、農業収入は低いといわれていますが、所得の高い農業者も少なくありません。所得の高い農業者は2世代、3世代と、後継者が続いています。

最近では、育児や家事も含めて「農業である」という考え方が広まっています。農林水産省では家族経営農業について、経営方針や家族一人ひとりの役割分担、就農条件などを、家族みんなで話し合いながら取り決める『家族経営協定』を推進しています。

家族経営協定は、口約束ではなく、文書にして第三者が立ち会って締結します。必要に応じて内容の見直しを行うことで、家族一人ひとりが尊重される家族となり、次の世代にスムーズに引き継げる農業を目指しています。県内では、農林振興センターが相談にのっています。

また、県内の約70団体の女性グループによる、農産物を使った食品調理加工などの動きもありますが、6次産業として確立していくことが今後の課題です。



【県産の農業関連資料】

【Q. 埼玉県産の農産物を広めていくためには？】

埼玉県は、加工食品の製造出荷額が全国第3位です。これは、県内に食品加工業者が集積しているからです。また農業者も頑張って農産物を作っています。しかしながら、埼玉県での生産・加工食品を県民にPRしきれていません。これは、農産物が、近くの埼玉県民に直接流通せず、東京へ優先的に流通する物流の問題があげられます。最近では、埼玉県産ブランドが注目されつつありますので、今後は埼玉県産ブランドの「見える化」も課題であると考えています。

さらに、農業に経営の視点を入れていくことも今後の課題です。休耕田が増加する中で、これらの新たな活用方法を検討していく必要があります。



【埼玉県産 PR ポスター】

【Q.日本の農業は、海外への輸出なども活発ですね】

日本の農産物は、アジアを中心に海外に輸出されていますが、中国向けには米、梨、リンゴのみが輸出でき、それ以外の農産物を輸出するのは、まだまだ難しい状況です。台湾では、比較的農産物の輸出の幅が広がっています。農産物の輸出は、国策として1兆円を目標に掲げています。輸出して儲かるのであれば、そこを狙っていくのも一つの方法です。

農産物は商品生産とは異なり、大量生産しても総コストが下がるわけではありません。販売価格が付いた時点で販売していく必要があります。

【Q.最近では、食育なども注目されていますね】

人間は本来、動物的環境の中で食がはぐくまれてきましたが、最近では命の大切さに触れ合う機会が少なくなっています。そこで県では2年前から、県内の小中学校が農園を持ち、農業者の指導を受けながら、学校現場で農業体験を行う『学校ファーム（農園）』に取り組んでいます。学校ファームでは、生産の苦勞を味わい、自然や命の大切さを児童生徒に学んでもらうほか、遊休農地の減少にもつなげていきたいと考えています。

(1)茨城県・佐賀県・千葉県が上位にランクインしている。

< 編集後記 >

西川材のこちよい木の香りの、緑豊かな部長室にお邪魔いたしました。西崎部長は農林部37年のキャリアがあり、農業のみならず、商業との連携や海外展開など、埼玉県の農業活性化のための、あらゆる視点でお話しいただきました。

西崎部長は埼玉地酒応援団でもいらっしゃいますので、次回は埼玉県の地酒のお話も伺えることを期待しています！お忙しい中、ありがとうございました。 (2010年10月 広報委員会)